# ＰＴＣＤ挿入患者の早期退院指導について

## ～患者のニーズに合った早期退院指導をめざして～

17階西　○三浦美代子　石塚　長田　古田　峰村
保田　横井

Ⅰ　はじめに

当病棟では、胆管癌等の閉塞性黄疸に対し、減黄を目的とした治療が多く行なわれている。その中の一つとして、経皮経肝胆道ドレナージ（以降ＰＴＣＤとする）を行なっており、ドレーンを挿入したまま退院する患者がほとんどである。今までＰＴＣＤ挿入患者の退院指導は主治医の退院指示によってはじめて開始される現状であり、退院前３日間から４日間という短期間で集中的に行なわれていた。そのため消毒、包交などの手技の指導が中心となり、在宅での日常生活を意識した生活指導は不十分であった。しかも家族の都合がつかず１回のみの消毒、包交指導で退院させてしまうこともあり退院後に問い合わせの電話や、チューブが抜けた等のトラブルが度々あった。これらの問題の一要因として、退院指導の期間があると考えた。

そこで、今回すでに退院してしまった患者と、長期退院指導を行なった患者を比較した。その結果、退院指導の期間が患者の退院後の生活にどのように影響するかを考察したのでここに報告する。

ここでいう退院指導とは、以下の方法であげた３－(2)内容を行なうものとする。

Ⅱ　方法

1　対象：17階西病棟でＰＴＣＤを挿入したまま退院した患者９人。平均年齢64.3歳。

2　研究期間：平成９年８月～平成９年11月

3　方法：無記名回答質問法。有効回答率 100％。

退院３～４日前に指導を開始…６人（以降短期とする）

退院一週間前に指導を開始…３人（以降長期とする）

(1)　短期の患者に質問紙を配布する。郵送にてそれを回収し協力を得られた６人の患者の退院後の生活への影響、指導期間の関係を明確にする。

(2)　指導方法は現在使用している１７階西病棟用のパンフレット（資料Ⅲ）、チェックリスト（資料Ⅳ）を使用し治療の方向性が決定してから以下の順に指導を開始する。

・胆汁破棄：胆汁量の測定、性状の観察、胆汁ボトルの洗浄、消毒

・生活指導：食事、排泄、運動、発熱、吐き気入浴時の注意事項、チューブトラブル出現時の対処方法

・消毒：挿入部の消毒と観察、PTCDチューブ固定

・外泊・入浴：実際にボトルをつけたまま自宅に帰り上記の項目について実践する。

(3)　長期の患者に質問紙を配布して回収する。協力を得られた３名の患者に退院後の生活への影響と期間の妥当性を明確にする。

(4)　(1)と(3)を比較し日常生活の適応や退院指導の期間について考察する。

Ⅲ　結果（資料Ⅱ）

実際に指導を開始した時期は短期では退院前３日が60％と最も多く、長期では１週間前が 100％であった。説明を受けた回数は、短期で１～２回と２～３回が各々40％を占めており、長期では３～４回が、 100％であった。（資料Ⅱ－(2)－２）

繰り返して説明を受けられたかどうかは短期では「非常に十分」は０％「やや十分～やや不十分」と言う答えが多かった。長期では全ての人が「非常に十分」と答えた。（Ⅱ－(1)－６）

説明・指導を受けた期間の満足度に関しては、短期ではややばらつきがあるものの「非常に十分」と答えた人は20％であった。長期では、すべての人が「非常に十分」と答えている。（Ⅱ－(2)－１１）

試験外泊については短期では行なった人が６人中４人行なわなかった人は６人中２人である。行なわなかった人の理由は、チューブ管理への不安や外泊する気がなかったというものであった。長期ではすべての人が試験外泊をしている。

退院するにあたっての心配度は、短期では各々の項目でほとんどが心配と答えている。特に入浴に関しては、83％の人が心配と答えた。長期では全ての項目で

「非常に心配」「全く心配でない」に二分していた。
（Ⅱ－(2)－12）

Ⅳ　考察

1　期間と回数について

資料Ⅱ－(1)2・4・6から期間が短いと説明回数が繰り返し受けられなくなるが、長くなれば当然その逆の可能性がでてくる。

(1)　回数が増えると、解からないところがあっても、振り返りながら繰り返し指導を受けられる。それにより患者は、自分の現状と問題点について客観的に評価することができる。

(2)　期間が長くなると、家族へ働きかける機会が多くもてる。

(1)(2)より、具体的な問題を想定して疑問をだせるだけの時間的余裕ができるのではないかと考える。それは日常生活の適応に大きく影響を与える。

(3)　今までの退院日は医師により、一方的に決定されていた。しかし、退院決定以前より指導を開始することで医師もその患者の心構えや指導の進行度を、知ることができ、患者・家族が“在宅での療養生活を送ることができる”とある程度自信を持った時点で退院できる。

2　期間と満足度について

(1)　短期の場合

資料Ⅱ－(2)11のように全ての人が満足のいく指導が受けられなかった。資料Ⅱ－(1)8・(2)9・10といった速さ、解かり易さ、生活に沿った内容（個別性）といった視点で評価しても十分ではなかったと言える。短期では、3日という限られた時間で指導しなくてはならないので、患者のペースではなく、看護婦のペースで指導していたからではないだろうか。

(2)　長期の場合

資料Ⅱ－(2)11のように全ての人が満足のいく指導を受けることができたと言っている。段階を追って徐々に指導ができた為、資料Ⅱ－(1)8・(2)9・10と言った指導の内容について全ての人が十分であると答えていると考える。上記のことから、指導期間の長期化は、患者・家族の満足度をあげるのに効果があったと言える。

3　期間の満足度と日常生活への不安

期間が短いと日常生活の不安を残したまま退院していくこととなり、期間が長くなれば当然その逆のことが言える。しかし、実際には長期の患者の中にも資料Ⅱ－12のように、非常に不安を残したまま退院している人がいる。退院指導期間を長期化し十分な知識・技術を習得しても、患者の精神的な不安を全て取り除くことはできないのであろう。

4　試験外泊と不安

長期退院指導をしたことで外泊の機会が増える。長期の患者が、退院後の生活について、全く心配していないと答えた理由として二点あると思われる。一点目は、試験外泊で自宅での生活を体験することができる。二点目は、その体験を活かし、退院後の生活について、見直す時間を作ることができる。このことから退院後の不安を減少させることかできると言える。外泊をすることは、患者が療養生活を継続する環境に自宅がふさわしいかどうかを、確認することができると言える。

看護婦は、外泊時に生じた新たな問題を知ることで指導内容の変更や修正ができ、不安を軽減することができる。よって退院前に外泊の機会を持つためには、早くから余裕を持っての退院指導が必要になると言える。

退院指導とは「退院、社会復帰のための患者指導」であり「入院と同時に開始されるべき」と言われている。また退院指導の長短は退院後の生活に影響していく。しかし、ＰＴＣＤ挿入患者は治療の効果によって退院の見通しが立ちにくい場合がある。入院と同時に退院指導を開始することは難しいが、日常生活の中で自立していけるよう支援が必要である。

Ⅴ　結論

長期に指導を行なえば、

1　より患者・家族に応じた退院計画を立案することができる。

2　患者が満足いくまで指導が行なえる。

3　退院後の日常生活への適応に効果がある。

4　長期退院指導により十分な知識、技術を持っていても、期間の長短に関わらず、精神的不安が残る場合がある。

Ⅵ　今後の課題

今回の研究では退院指導を左右する要因の一つである期間に着目した。しかし、その他の要因として、指導内容、患者の理解力、家族背景、病状が考えられる。

今後は、長期退院指導を行なう中でこれらの要因も検討し行なっていく。

＜引用・参考文献＞

1）看護学大辞典：第３版　第11刷　Ｐ1224　メジカルフレンド社

2）川島みどり：実践的看護マニュアル共通技術編　第１版　第５刷　Ｐ43～44　看護の科学者　1993年

3）手島陸久：退院計画の概念と内容　病院５２巻８号　72～75　1995

4）堀越由紀子：大学病院における退院計画　北里大学病院総合相談部の取り組み　病院53巻　３号　Ｐ60～63　1994年

5）手島陸久：諸外国における動向と日本における課題病院53巻５号Ｐ75～76　1994年


資料Ⅰ－(1)

以下のアンケートの当てはまる項目に○を付けてください。

1．このアンケートはどなたが記入されましたか。
ａ御本人　ｂ配偶者　ｃ子供　ｄ子供の配偶者　ｅその他（　　）

2．入院中に退院後の生活について看護婦よりいつ頃から指導を受けましたか。
ａ退院後３日前　ｂ退院後５日前　ｃ退院後１週間前　ｄその他

4．入院中に退院後の生活についての説明は何回受けられましたか。
ａ１～２回　ｂ３～４回　ｃ５～６回　ｄそれ以上（　　）回

5．入院中行なった退院後の生活についての説明数は十分でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

6．繰り返して説明を受けられましたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

7．自分が疑問に思うことについて、看護婦に質問できましたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

8．説明を進める速さは適当でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

資料Ⅰ－(2)

9．説明はわかりやすい言葉でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

10．説明や指導の内容は退院後の生活に合っていましたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

11．説明や指導を受けた時間は十分でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分
ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

12．退院して自宅に帰るにあたり、どの程度心配でしたか？
ａ非常に心配　ｄあまり心配ではない
ｂやや心配　ｅ全く心配ではない
ｃどちらでもない

ａ消毒　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｂ入浴　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｃ外出　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｄ仕事　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

13．退院前に様子を見るためのためし外泊はできましたか。（複数解答可）
はい→・どのようなことをしてきましたか。
ａ消毒をした　ｂ入浴をした　ｃ体をふいた　ｄ散歩をした
ｅ仕事をした　ｆその他（　　）
いいえ→・該当する理由に○を付けて下さい。
ａまだ早いと思ったから　ｂチューブの管理が不安
ｃしたかったが時間がなかった　ｄする気がなかった
ｅその他（　　）

資料Ⅰ－(3)

14．チューブの挿入後、自宅に戻ってからの生活に変化がありましたか。
ａかなりある　ｄあまりない
ｂややある　ｅ全くない
ｃどちらでもない

ａ入浴　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｂ食事　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｃ仕事　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｄ余暇　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｅ睡眠　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｆ排泄　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｇ運動　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｈ対人関係　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ
ｉ家族との関わり　ａ　ｂ　ｃ　ｄ　ｅ

15．チューブを入れた状態での生活をどのように感じますか。
ａ退院できてよかった　ｂうまく付き合っていこうと思う
ｃチューブを入れる前と変わらない　ｄ仕方がない　ｅ無いほうがいい
ｆ自信が無くなった　ｇチューブやボトルをみられるのがいや
ｈ抜いてしまいたい時がある　ｉその他（　　）

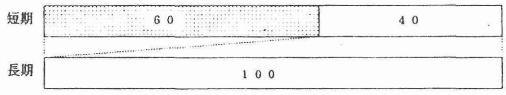
16．チューブが抜けそうになったこと、また抜けてしまったことがありますか。

はい　いいえ

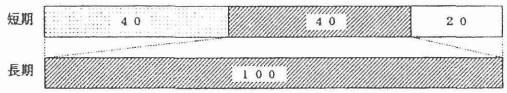
御協力ありがとうございました

資料Ⅱ－(1)

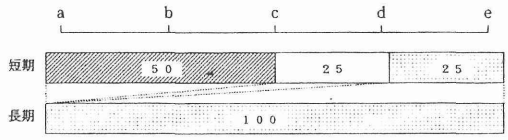
2．入院中に退院後の生活について看護婦よりいつ頃から指導を受けましたか。
a退院3日前　b退院5日前　c退院1週間前　dその他



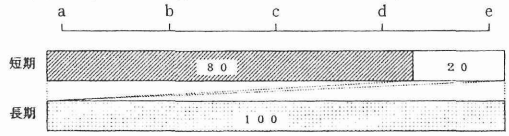

4．入院中に退院後の生活についての説明は何回受けられましたか。
a 1～2回　b 3～4回　c 5～6回　dそれ以上（　　）回




6．繰り返して説明を受けられましたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分

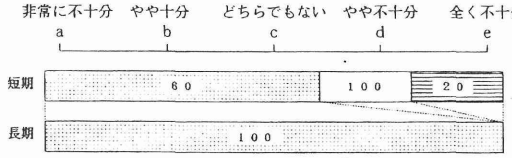



8．説明を進める速さは適当でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分

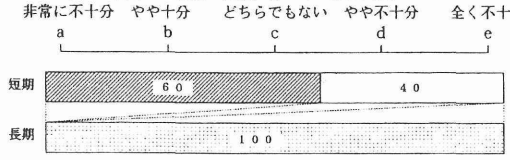



資料Ⅱ－(2)

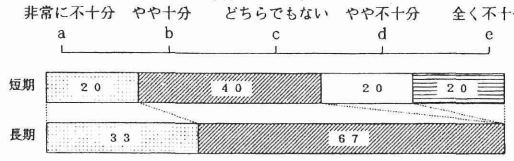
9．説明はわかりやすい言葉でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分




10．説明や指導の内容は退院後の生活に合っていましたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分




11．説明や指導を受けた期間は十分でしたか。
非常に不十分　やや十分　どちらでもない　やや不十分　全く不十分




12．退院して自宅に帰るにあたり、どの程度心配でしたか。

①消毒
a　b　c　d　e

②入浴
a　b　c　d　e

資料Ⅱ－(3)

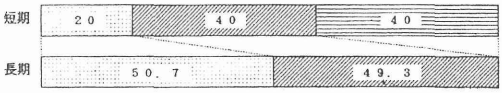
③ 外出
a　b　c　d　e

③ 仕事
a　b　c　d　e

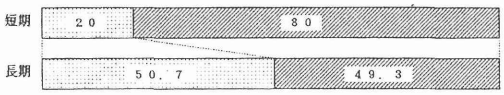
a非常に心配　bやや心配　cどちらでもない　dあまり心配でない
e全く心配ではない

a　d
b　e
c

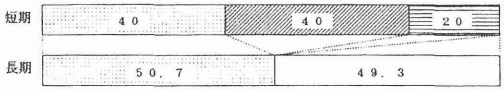
① 消毒



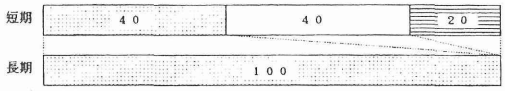

② 入浴




③ 外出




④ 仕事




資料Ⅲ－(1)

# PTCDボタン式の管理

東京医科大学病院
17西病棟

資料Ⅲ－(2)

## ～目　次～


1 ： 食事について

2 ： 日常生活について

3 ： 便・尿の色について

4 ： 発熱・腹痛・吐き気等の症状が現れたとき

5 ： チューブについて

6 ： 消毒について

7 ： 入浴について

資料Ⅲ－(3)

1．食事について

油物は、少々控えましょう。その他、特に制限はありません。栄養のバランスを考え、食べやすいものを少しずつ多種類食べましょう。

2．日常生活について

激しい運動はさけましょう。しかし、軽めの体操や散歩などは問題ありません。積極的におこないましょう。

3．便・尿の色について

便が白く、尿が紅茶のように濃く、又、顔色が黄色くなり、体がだるくなる等症状が出現したら受診しましょう。

4．発熱・腹痛・吐き気等の症状が現れたとき

① 発熱したとき・・・

② 腹痛が出たとき・・・

③ 吐き気が出たとき・・・

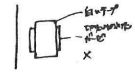
資料Ⅲ－(4)

5．チューブについて

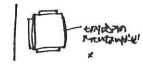
(1) 綿棒で、チューブの内側から外側に向かって消毒をします。
※この時、次の項目に注意し観察して下さい。
① 赤くなったり、腫れたりしていませんか。
② 胆汁のもれはありませんか。
③ 血液やうみはでていませんか。

(2) チューブと皮膚の間に、切れ目の入ったガーゼを手ではさみ込みます。

(3) 2の上に、白いテープを張ります。




(4) 白いテープの上に、切れ目の入っていないガーゼを乗せます。
※チューブがガーゼをはさんでも浮いている時はチューブをもとの位置に固定します。



(5) 白いテープで、ガーゼの上を固定します。

資料Ⅲ－(5)

6．消毒について

※傷口が不潔になり、熱が出て来たりする事を防ぐ為に、一週間に3回は消毒が必要です。

〈必要物品〉

・消毒用セット

《　　》

・消毒液〔イソジン液〕
・白いテープ
・ゴミ箱

〈消毒方法〉

1．手を洗います。

2．消毒用セットを開き、使いやすい位置に用意します。

3．固定しているテープをはがします。
※はがす時は、体の中に入っているチューブを引き抜かないようにするためゆっくり、少しずつはがしましょう。

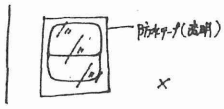
4．ゴミ箱を用意し、その上に雫が落ちても大丈夫なように綿棒を持ちます。

5．綿棒の上から消毒液を、綿棒が少し濡れる程度にたらします。

資料Ⅲ－(6)

7．入浴について

① 透明な防水テープを白いテープの上にはります。




② 入浴し体をきれいにしましょう。 湯船につかって良いです。

③ 入浴後は必ず消毒しましょう。

資料Ⅲ－(7)

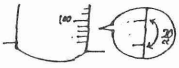
## 外出時、胆汁のすて方

＿＿＿＿＿＿＿＿殿

1：チューブがねじれないように、ボトル側をまわし、チューブとボトルをはずします。

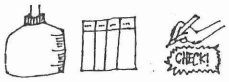
2：チューブの先は手で持ち、不潔にならないようにしましょう。

3：ボトルは平らな台に置き、メモリ（1メモリ20cc）で胆汁の量をみます。




4：胆汁はトイレに捨てましょう。この時ボトルを、水又は塩素系の消毒液ですすいできれいにします。

5：量と時間を用紙に記入しましょう。




資料Ⅲ－(8)

＿＿＿＿＿＿＿＿殿

| 日付 | 時間 | 胆汁の量 | 胆汁の色 | 胆汁のもれ | 体温 | 便の回数・色 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

〈備考〉

何か分からない事がありましたら、１７西に御連絡下さい。

（３３４２－６１１１内線２６７０）

資料Ⅳ－(1)

No. 1

| 項　　目 | 説明聞いた人 | 説明日 | コメント | 最終チェック日 | 説明NS |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 食事について | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 2. 日常生活について | | | | | |
| | | | | | |
| 3. 尿・便の色、症状について | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 4. ①発熱した時 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ②腹痛が出た時 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ③吐き気が出た時 | | | | | |
| | | | | | |

資料Ⅳ－(2)

No. 2

| 項　　目 | 説明聞いた人 | 説明日 | コメント | 最終チェック日 | 説明NS |
|---|---|---|---|---|---|
| 5. チューブについて | | | | | |
| ①固定がはがれそう | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ②チューブが抜けかかってきた時 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ③チューブの周囲から胆汁が漏れてきた時 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

資料Ⅳ－(3)

No. 3

| 項　　目 | 説明聞いた人 | 説明日 | コメント | 最終チェック日 | 説明NS |
|---|---|---|---|---|---|
| 6.　消毒について<br>①必要物品<br>（物がなにか理解できる） | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 消毒方法<br>①手洗い | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ②置く位置<br>（必要物品がそろっているか） | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ③テープのはがし方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ④⑤消毒液のつけ方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

資料Ⅳ－(4)

No. 4

| 項　　目 | 説明聞いた人 | 説明日 | コメント | 最終チェック日 | 説明NS |
|---|---|---|---|---|---|
| ⑥a 消毒の仕方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| b 観察 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ⑦　割ガーゼのはさみ方<br>ガーゼののせ方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ⑧固定の仕方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

資料Ⅳ－(5)

No. 5

| 項　　目 | 説明聞いた人 | 説明日 | コメント | 最終チェック日 | 説明NS |
|---|---|---|---|---|---|
| 胆汁のすて方<br>①はずし方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ②チューブの先清潔な持ち方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ③メモリの読み方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ④ボトルの消毒の仕方 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| ⑤記入方法 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |